



お江戸手品師

ありすがわ もえ
有栖川 萌

手品やマジックというと西洋的なイメージがありますが、日本にも昔からマジックの文化がありました。

江戸時代には、手品のことを「^{てづま}手妻」と呼んでいました。なぜか
というと、手品師が^て手を^{いなすま}稲妻のように早く動かすから、略して
「^{てづま}手妻」。この「^{てづま}手妻」を有栖川 ^{ありすがわ}萌が『お江戸まじっく』として
現代に^{よみがえ}甦らせます。音楽に合わせて、繊細に優美に舞うような
表現や、「見立て」の芸、口上の言葉遊びの面白さなど江戸の
人々が楽しんでいた趣はそのままだ、今の人が見ても楽しめるよ
う現代風にアレンジしました。

おめでたいパーティーや新年会、学校公演、また外国人向けの
イベントにも好評です。和の独特な華やかさと雰囲気^{あで}に惹き込ま
れることでしょう。艶やかな和の世界をお楽しみください。

*近年では「^{てづま}手妻」はその価値が見直され国の無形文化財に指定されています



ぷろふいーる

小さい頃からプリンセステンコーに憧れマジックに興味を持ち、大学ではマジック部に所属。大学卒業後はプロマジシャンとして日本全国を飛び回り、マジックショーやイリュージョンショーに出演します。

数多くのマジック演じる中、日本の古典手品である「^{てづま}手妻」に特に惹かれ、独自のアレンジを加えて「お江戸手品師」としても活動を始めました。

特技は日本舞踊とカンフー茶芸。趣味は旅行。「世界の果てまでイッテQ」やBSフジテレビ「ザ・マジックシアター」などメディアにも出演し、手妻の魅力を広めています。